



# 学びの虹

東京都立鹿本学園 学校通信 令和5年7月20日号

東京都立鹿本学園

校長 高橋 馨

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

## 夏休みに向けて ～生成AIの可能性～

『みなさん、いよいよ夏休みが始まります。夏休みは、自分自身をリフレッシュする大切な時間です。安全に気をつけながら、ゆっくりと楽しんでください。友達や家族と過ごす時間、新しいことに挑戦する時間、たくさんの思い出を作る時間です。また、新学期に向けての準備もお忘れなく。皆さんが健康で充実した夏を過ごせることを願っています。よい夏休みをお過ごしください。』

7月4日に文部科学省より「生成系AIの利用に関する暫定的なガイドライン」が示されました。夏休み期間にその利用が急激に進むことを想定し、学校からの課題など学習場面で活用する際の適正な利用を促すことを意識したものと考えられます。既にお気づきの方もいるかと思いますが、冒頭の文章は生成AI(chatGPT)で作成した文章です。はじめに「夏休みに向けて校長先生からのメッセージを150字程度で簡単に」と指示しました。そうして出来上がった文章に対し、さらに「小学生向けに」、「違うパターンで」、「ですます調に」と4回ほどAIとやり取りをしました。直接手を加えたのは赤字の部分だけで、それ以外は全てAIによるものです。紙面の都合で文字数を指定しましたが、制限が無ければ、さらに多くの情報が加えられた文章を数秒で作成することができ、改めてAIの可能性を実感させられます。今回の文書作成で使用したAI(chatGPT)はテキスト形式で指示をする必要がありますが、今後は音声等でより簡単にAIを使えるようになることが予想されます。特別支援学校に通う児童・生徒にとっても、様々な場面で活動を支援するツールになることが期待されます。

一方で、AIの利用については、情報漏洩や著作権などの課題も指摘されています。しかしながら、そうしたリスクを回避したうえで、さらなる

活用を進める必要があるツールとして、生成AIの利用は着実に広がっています。教育現場においても、様々なアイデアや発想で生成AIの活用が進み、紹介されるようになってきました。本校でも、特別支援学校ならではの思いもよらない素敵な使い方が見つかることを期待するところです。

ガイドラインの「活用が考えられる例」として英会話の相手としての活用が記されていました。なるほど、と思いました。この「chatGPT」、当然ながら日本語で入力すれば、日本語で答えてくれます。「あなたは誰？」と質問すると、会話しているように丁寧に自己紹介をしてくれます。子供たちにとって会話の練習相手になるのでは、と感じるほどの滑らかさです。明日からの夏休み、少しまとまった時間が取れた時、御家族で試してみたいかがでしょうか。「新しいことに挑戦する時間」や「家族と過ごす時間」、そして「新たな発見や気付き」を楽しんでください。

## 家庭での学び NHK for School

「NHK for School」を御存知ですか？ 知らないという方も、Eテレ・NHKの教育番組は見たことがあると思います。「NHK for School」は、NHKの教育番組に関わる様々な情報を集めた総合サイトです。多言語対応で、様々なコンテンツを安全に楽しむことができます。番組の視聴はもちろん、番組に関係するクイズやゲーム、ドリルやワークシートまで用意されています。今の時期ですと、夏休み中の視聴に合わせた特集や、「家庭での学び」を支えるコーナーも開設されています。夏休み中の「家庭での学び」を進めるアイデアのひとつとして御紹介しました。

詳細は以下のリンクや添付案内を御覧ください。

⇒ <https://www.nhk.or.jp/school/>

鹿本学園校長 高橋 馨

# ～訪問学級紹介～

肢体不自由教育部門訪問学級には、現在小学部6名、中学部2名、高等部2名の児童・生徒が在籍しています。1回2時間を標準として、週3回を上限に、各御家庭へ訪問して授業を行っています。

国語・算数/数学（読み聞かせやパネルシアター、タブレット端末を使用した学習等）、音楽（歌遊びや楽器を使った活動）、図画工作/美術（感触遊びや制作活動）等の教科学習、自立活動（身体を取り組み）、生活単元学習（季節や行事に沿った単元）等、御家庭の御協力のもと、一人一人の健康状態や課題に応じ、一対一で丁寧に関わり学べる良さを活かして取り組んでいます。また、「友達と一緒に学ぶこと」や「集団参加」を目的に、学校や校外行事へのスクーリングを行っています。スクーリング以外でも、同じ学部、学年、学習グループとオンラインを通じて交流を行う機会があります。健康状態に十分配慮しながら可能な範囲で授業を行い、人間関係や学習の機会を広げています。1学期の取り組みとして、中学部・高等部では、生徒会や学年、学習グループとオンラインでつながり授業を行いました。小学部では、スクーリングで学習グループの授業に参加したり、移動教室（日帰り）に参加したりすることができました。

本校S棟の100m廊下には、訪問学級の児童・生徒の作品を掲示しています。ぜひ、御覧ください。

S部門 小学部 訪問学級担当：栗原 美和

# ～副籍交流について～

いつも御理解・御協力いただきありがとうございます。

今年度の状況については以下のとおりです。

	児童・生徒数	交流形態	地域指定校数
知的障害教育部門	323名 (小・中学部)	直接交流 43名	江戸川区 小学校 53校 中学校 32校
		間接交流 68名	
肢体不自由教育部門	104名 (小・中学部)	直接交流 24名	葛飾区 小学校 5校 中学校 4校
		間接交流 23名	

今年度、直接交流が本格的に復活し、高学年になって初めて直接交流を希望されたケースも多いです。少しずつ挨拶訪問を済ませ、既に交流を楽しんできた児童・生徒もいます。交流は楽しみでもあり、緊張や不安な気持ちもあると思います。傍らでサポートする保護者の方も同じ思いを感じられているかもしれません。気になること等ありましたら、担任を通して特別支援教育コーディネーターへお気軽に御相談ください。

年度末には「しかもとの副籍」で交流内容の御報告をさせていただく予定です。